

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐特別支援学校

学校番号

108

自己評価

1 学校教育目標	児童生徒がもつ可能性を最大限に伸ばし、可能な限り地域社会に参加していく基礎的・基本的な力を身に付けることができるように、次のことをねらいとする。 ・児童生徒一人一人の障がいの状況や特性、発達段階等に応じたきめ細かい教育支援を行う。 ・仲間や地域と共にくましく、明るい生きる力を育む。 ・児童生徒が主体的に社会参加するための必要な基礎的・基本的な知識や技能を培う。
2 評価する領域・分野	◇高等部
3 現状及び保護者を対象とするアンケートの結果分析等	・「学校は生徒一人一人のよさや可能性を伸ばすような工夫をしている」「先生は生徒たちの教育に熱心に取り組んでいる」「先生は専門的な知識が豊かで教師としての資質を身に付けている」「学校は健康で安全な信頼される学校づくりに努めている」等の11項目で95%以上の評価を受けた。 ・「教育活動に関する自己評価を保護者へ分かりやすく伝えている」「体罰の防止に努めている」「いじめや差別を許さず厳しく対応している」等の7項目で85%の前後の評価であった。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 健康な身体と豊かな心を育み、コミュニケーション能力の向上を図る。 (2) 望ましい勤労観と社会性を身に付け、進んで仕事に取り組む。 (3) 様々な活動を体験し、豊かな生活を送る力を身に付ける。
5 重点目標を達成するための校内組織体制	・学部内での共通理解 ・学年間の連携 ・学部間の連携 ・校務分掌及び事務部との連携
6 目標の達成に必要な具体的取組	(1) 学年間の連携をとおり、生徒が諸活動に自主的かつ主体的に取り組む力を育む学部経営、学年経営、学級経営を行う。 (2) 生徒一人一人の教育的課題を明確にし、卒業後に社会参加、社会自立を図られるように、作業学習、校内作業実習、現場実習、企業内作業学習を実践する。 (3) 自立や社会参加に向けた安全教育の推進（交通安全、地域社会活動、命を守る訓練）に取り組む。
7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	・職員の意見、反省 ・生徒及び保護者のアンケート結果及び意見 ・現場実習及び販売活動先担当者からの意見及び感想 ・学校評議員の意見

8 取組状況・実践内容等	(1) 生徒情報を共有し、全職員による共通の指導体制の確立を図った。 (2) 生徒の実態を踏まえた上で、社会人として必要とされる基礎的・基本的な力を身につけるために指導した。 (3) 将来を見据えて適切な時期に支援会議やケース会議を実施した。 (4) 訓練時のみならず、日常生活で生かせるような安全の意識付けをした。
9 評価の視点	評価
・生徒が自主的かつ主体的に取り組める学習活動が展開できたか。 ・生徒の将来を見据えた作業学習等への取り組みを仕組むことができたか。 ・保護者の要請を請け、支援会議やケース会議を実施することができたか。 ・安心や安全を意識した日常生活を送ることができたか。	A ㊦ C D A ㊦ C D A ㊦ C D A ㊦ C D
10 成果・課題	総合評価
○学年の行事を通して、仲間と相談し企画・運営する力が身についた。(1年) ○作業学習を通して、挨拶、言葉使い、時間厳守で仕事に集中して取り組む力が身についた。(1年) ○授業での実習等をとおして実態の異なる仲間を補助・手助けしながら協力して取り組む力・作り上げる力が身についた。(2年) ○みんなで協力して1つのものを作り上げる力や自分の役割に責任をもち最後までやり遂げる力、人前で発表・表現する力が身についた。(3年) ○グループ学習において、分かりやすく記録したり、意見を述べたり、相手の考えに対して意見を述べたり賛同したりする力が身についた。(3年) ▲自分の気持ちを表現したり、状況を詳細に説明したりすることが上手くできない。表現する力が身のつくような学習活動を年間を通して行う。(1年) ▲社会人として求められる挨拶、服装、食事等のマナーの習得が十分できなかった。3年間を見通した計画の作成が必要である。(2年) ▲生単で社会自立に向けての取り組みを行ったが、継続性に欠けて十分な力が身につけていない。3年間の系統性を考慮した指導計画を立てる。(3年) ○生徒の将来を見据え、個々の目標に応じて指導した。保護者対象アンケートでは「個別の支援計画を保護者等と連携して作成し、将来を見通した支援をしている」の項目で「よく・やや当てはまる」が、93.6%である。	A ㊦ C D
11 来年度に向けての改善方策案	・卒業後の生徒の姿を具体的にイメージして高等部での学習活動を展開し、適正な進路・就労に向けて指導・支援していく。 ・学年間や作業学習班間の生徒情報を共有し指導できる態勢の充実を図る。 ・製造、販売に加え創造的活動を取り入れた作業学習の在り方を構築する。 ・病弱のみの教育課程の指導計画の作成を進める。
学校関係者評価 (平成30年2月9日実施) 意見・要望・評価等 ・作業製品の質が高く、学校や生徒の作業作品についての熱意や工夫が感じられる。 ・保護者対象に20歳になると制度が変わることの説明会を行っていただいているのでありがたい。 ・高等部卒業後の進路について、保護者としては心配である。そこを是非在校中に力をつけほしい。	